学生の声

雑感

通信情報システム専攻　佐藤研究室（三菱電機所属）　内　藤　　出

修士課程を修了後10年余り、「社会人特別選抜」（いわゆる社会人博士）の制度を利用して情報学研究科の博士後期課程の学生として再び入学し、約一年が経ちました。社会人博士というのは、会社等の承認の下、会社等に在職したまま入学するのですが、幸い所属上長の理解もあり、入学する機会を与えられたことは有り難いことだと感謝しています。日常は会社の業務に従事しつつ、時間を見つけては講義に出席したり、研究の途中経過や投稿論文を持参して指導教官の先生にご指導いただくという生活を送っています。

入社以来、研究所に在籍している関係で、「研究」は身近な存在、というより仕事そのものなのですが、卒業後10年も経つと、やはり「学校」という場は新鮮に感じられます。例えば、「通信情報特別セミナー」では、全く専門外の分野に関する最新の研究動向を、素人にもわかるような平易な解説で聴くことができます。一旦就職してしまうと、このような機会はなかなか持てないもので、思いもよらないものの見方を教わったりして、非常に刺激になります。また、指導教官の先生に論文のご指導を頂く場合にも、会社で指摘されるのとは全く違った角度からの指摘を頂くことが多々あります。企業では、たとえ研究所であれ、迅速な製品化への貢献が求められます。これは、企業として当然なのですが、場合によっては基本的検討が不充分になる場合があり、研究のやり方について考えさせられる機会となります。いずれにせよ、卒業後約10年のこの時期に入学し、自分を見つめ直す良い機会になっているのは確かです。今後も、大学の門戸が広く開かれ、一旦社会に出た人の再教育・活性化のためにこの制度が活用されることを願っています。

京都大学の印象

電気工学専攻　自動制御工学研究室　博士後期課程１年　周　　軍

日本に来るまえに、日本では、京大で勉強していたことは卒業後日本社会のパスポートを持つことになると言われた。これは、京大の教育および研究レベルが高くて、日本でも世界でも大きな影響力を持っているからである。このようなイメージを心にこめ、わたしも去年涼しい秋風を伴って、京大に入ってきた。

これまで、もう一年経った。京都大学は心にどう映るか。ここで記述したのは ただ京大のいくつかの側面に限るが、全く自らの実感である。これらは京大の真実かもしれないと思っている。

その１つは、京大の業績が一生懸命に努力し、優秀な人材を育てている教授らのお蔭であると考えている。夜遅くまで頑張っている研究者の姿がよくみられる。これをみながら、私も誰にも負けないという気持ちで仕事を進めていく。このような競争が 大学全体として京大の業績をあげるにほかならない。私自身ももっと力を入れて研究しつつけていこうという思いに至る。

一方、学生たちの中には、激しい受験戦争に勝ち、京大に入学したことを努力の終結に等しいこととするものもみられた。この現象は京大の立派な形象と多少マッチしないのではないだろうか。

２つめは、現在日本では技術だけでなく、独創性をもつ理論的な研究も目立っている。後者の発展は京大のような日本の大学にいる研究者の努力に依存するわけである。優れた技術が日本で学べ、新しい科学思想をアメリカで探せるという言い方は、もう歴史の言葉になるのだった。わたしの所属する研究室のスタッフは素晴らしい研究を進めて、学生を厳しく指導している。このような研究環境において、学生にとってはたいへんな感じがしたことがある。しかしながら、将来いい研究結果ができると思う。

京大は日本の代表的な教育機関として、世界の知識界と教育界の人々に知られていて、今後どんな姿で世界にアピールするかが現在のキャンパスの至るところでよく聞いた話題である。京大で短い間暮らす留学生たちでも京大が一層優秀な大学にするのを願っている。